



## 図書館資料

世の中にはたくさんの職業があります。そしてその職業ごとに専門用語があります。よく耳にするのは、お寿司屋さんではないでしょうか。醤油のことは『むらさき』、寿司飯は『シャリ』、お茶は『あがり』などなど。口にするとなんだか“通”になった気分になれます。

図書館にも専門用語があるんです。いくつかご紹介しましょう。

### ・ BM

Book Mobile 『移動図書館』のことです。大館市立図書館ではおとり号ですね。今日も大館市内を本と笑顔を積んで走っています。見かけましたらどうぞお気軽にお立ち寄りください。新しい出会いが待っていますよ。

### ・ レファレンス・サービス

図書館にはいろいろな質問がよせられます。「直木賞の『宝島』はありますか?」といったすぐにお答えできる質問から（「はい、ございます。ただいま貸出中ですのでご予約下さい」）、「ハチ公のことを調べたい」といった回答までにお時間をいただく質問まで様々です。そういった質問に応じた資料を提供したり、回答したりすることをレファレンス・サービスといいます。

### ・ 図書館資料

以前研修で「『図書館資料』と言われても、利用者は何のことか分からない。『資料』と言われると、会議資料などの冊子などを思い浮かべる人がほとんど」と言われて、はっとしました。よく言葉にしていたからです。図書館は本だけではなく、新聞や雑誌、パンフレットなどを集めて保管しています。それら全般を図書館資料といっています。

### ❁ 図書館資料は貴重です

図書館が所蔵しているものは本が大部分を占めていますが、雑誌や新聞も貴重な資料です。雑誌は、大館市立図書館4館で65誌所蔵しています。その中でも、『暮らしの手帖』は1948年発行の第1号から、『芸術新潮』は1975年5月号から保存しております。古い雑誌は貴重なものとして貸し出しはしていませんが、図書館内では自由にご覧いただけます。どうぞカウンター職員へお声がけ下さい。そのほかの雑誌は保存期限が決まっています。期限の切れた雑誌は図書館まつりなどでプレゼントしています。

新聞は8紙を取り扱っています。北鹿新聞や秋田魁新報は昭和20年から収集保存しています。全国紙も5年から10年と期間は決まっていますが、保存しています。よく「古い新聞を見せてください」と問い合わせがきます。古い新聞と言われると身構えますが（なにしろ昭和の新聞は劣化しているのです、扱いには慎重を期するのです）、「平成〇年」と言われるとまだ“新しい新聞”という感覚です。平成も30年も過ぎ、5月から新しい元号に変わろうとしています。昭和も遠くなりになり、です。

❖ 図書館資料は財産です

残念なことに貴重な資料である新聞や雑誌が、抜き取られたり切り抜かれたりすることがあります。本は買い換えることができますが、新聞はそれができません。一度失われたらそれでおしまいなのです。抜き取りを防ぐために、新聞や雑誌は新聞雑誌コーナーでご覧いただくようになりました。テーブル席もご用意しました。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

図書館資料は現在の私たちが後世に残せる貴重な財産です。未来の大館市民に胸を張って残せるようなきれいな状態で資料を残していくために、ぜひとも皆様のご協力をお願いいたします。（くま）